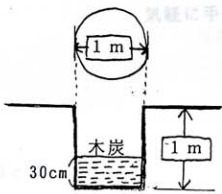
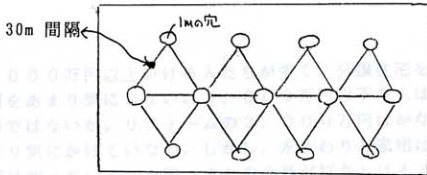


簡単にできて喜ばれる吉相の土地変換法

敷地内の土地に直径1m、深さ1mの土を掘り、木炭を30cmほど詰めたと、その土をもとに戻す。これで吉相の土地になる。



直径1mの穴で、半径15mの土地相がよくなる。広い敷地ならトライアングル状(三角)で穴をあければよい。50m間隔の穴で80m四方の土地を良くすることができる。ただし、土用は絶対に避けること。1月、4月、7月、10月に土用が18日間あるので要注意。



これは、土地に傷をつけると損傷電位(マイナスイオン)が出る。地球の表面は人間の皮膚と同じで、鍼を打つことと同意。鍼は経絡(ツボ)を刺激し、マイナスイオンを出す。(ゴミ、ダニがなくなり病気がなくなる。人間の皮膚はケガをすると大量のマイナスイオンが出る。ケガをした場合、そこにうすい紙をおき、針で軽くつつ突くと早く直る。)

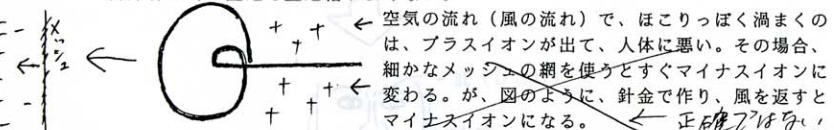
さて、木炭を入れる意味は、損傷電位を安定させるため。(炭は、あたたかく、居心地が良いと東北地方の人は愛用している。)炭の効用は湿気をとったり、酸化させ、すっきりさせる。水分を吸収し、脱臭効果がある。微生物が発生し、カビ、ダニなど害虫をおさえる。しかし、木炭の変わりに、練炭、古タイヤなどは絶対にダメ。もっと悪い土地相にしてしまう。

この手法なら、安く、簡単で、どんな土地も(酸性質、アルカリ性土の強すぎる土地)直せる。

なお、床下の土相も1mの穴を掘り、炭を埋める方法で土地相を変えることも出来る。

工場など広い土地は、吉相の土地を悪い土地に30mずつ正三角形のトライアングル状に伝染させることで良い土地に変えられる。

海岸線の岬の土地も土地相がよくない。



土地相の見分けは大都市や住宅地になると、諸々の条件があり、簡単に説明しにくい。マイナスイオンかプラスイオンかをチェックする方法もあるが、それだけでは不十分なので、機会があれば改めてお話ししたい。